

- 1 主題名 いろいろなもの見方や考え方
内容項目 B－(9) 「相互理解、寛容」
- 2 ねらい いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち、謙虚に他に学ぼうとする心情を育てる
- 3 教材名 「本当に望ましい社会って……」
(出典：『中学生道徳 2年 かけがえのないきみだから』学研)

4 主題設定の理由

- 中学校の【相互理解、寛容】について、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では『自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと』をねらいとしている。

特に中学生の時期は、もの見方や考え方に個性が出てくるものである。新たな環境や学級の仲間や先輩との新たな出会い、たくさんの行事を経験することでももの見方、考え方の多様さを実感し始める。そして、これらの経験から物事にたいする見方や考え方が確立し、自分で物事を判断し、行動できるようになる。自我の芽生えにより周りに頼らない自立心や自主的に行動しようとする姿勢がみられるようになり、学年が上がるにつれて、その傾向が強くなっていく。一方で自分の考えや立場に固執するといった、自分中心の言動がみられたり、寛容さや謙虚さが欠けたりする面も見られる。

この時期の生徒にとって大切なことは、世の中の人々がもつ多様さについてそれを認め、それぞれの考えや立場を尊重することである。他者のよい面を積極的に認めることが、他者を受け入れる寛容の心をもつことにつながる。また、自分のもの見方や考え方を広げていくためには、他者に学ぶことが大切であるということに気付き、他者の助言や忠告に謙虚に耳を傾けることが必要である。他の人の立場や考えを理解し、他者に学ぶことで自分自身がさらに成長し、これからの生き方がよりよいものになっていくと考える。

- <個人情報保護のため省略>

○ 本教材は、三つの話から構成される。7人の子どもたちをかかえて生活苦からわずかの肉を盗んだ男に、3ヶ月の禁固刑をくださった治安官の話。法律上は正当な理由がある借金の取り立てを、「相手が困窮しているならば人間として慎むべきだ」と弁護士のリンカーンが代理人を断った話。利益を独り占めした親友の管仲にたいし、「お金は、必要な人が必要なときに必要なだけ使うほうが良い」と考え、とがめなかった鮑叔の話。これらの三つの話の判断の根拠や立場を考えさせることで、立場や状況によっていろいろなものの見方や考え方があるのだということを共感的に理解させ、他者を尊重する心情を育てたい。

本時に際しては、内容をより理解した状態で授業を行えるように本教材『本当に望ましい社会って……』をあらかじめ配布しておく。授業では、はじめに、配布しておいた教材を基に本時で扱う内容を確認し道徳的課題を把握する。そして、登場人物それぞれの立場を整理して、主体的に考えさせるために『それぞれの立場で自分だったらどうするか』を問う。個人で考えを発表する場面では名前カードを黒板に貼り付けて視覚化し、互いの立場や考えを把握しやすくなるようにしたい。次に、『どういう判断が望ましいか』を個人で考えたうえで、グループ、全体へと広げ、議論する。その中で、立場や場面、人間関係などに着目しながら、それぞれの話を関連付けさせ、多面的・多角的に物事を見る力や、他者を理解し共感する力を高める機会としたい。

最後に、治安官・リンカーン・鮑叔三者の行動や判断について、授業のはじめの自分の考えと今の自分の考えとを比較し、本時の学びを確かめさせたい。そして、学校生活でも様々な場面や立場、役割があることを説明し、『これから学校生活で生かせること』を考え、本時の学びを身近な生活に結びつけるとともに、それぞれの思いを共有することで道徳的実践意欲を高めたい。

5 学習過程

※事前 …… 資料（プリント）の読み

	学習活動	発問□ 及び予想される生徒の反応（・）	指導上の留意点
導入 〈気づく〉 〈とらえる〉	・あらかじめ配布した資料の内容を確認する	A（イギリスの話） 治安官と肉を盗んだ男 B（アメリカの話） 借金を取り立てる弁護を頼む男とリンカーン（弁護士） C（中国の話） 商人であり親友の管仲と鮑叔	・ねらいとする道徳的価値について考えを深めていくためにも登場人物それぞれの立場を確認するようにする。

展開 〈深める〉	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考え、発表する。 	<p>あなたがそれぞれの立場だったらどうしますか。</p> <p>A（イギリスの話）</p> <ul style="list-style-type: none"> 起訴する。・起訴しない。 条件付きで・・・。・刑を軽くする。 <p>B（アメリカの話）</p> <ul style="list-style-type: none"> 弁護を受け持つ。・弁護を断る。 <p>C：（中国の話）</p> <ul style="list-style-type: none"> 利益を分けてもらうように頼む。 半分ずつにしてもらう。 利益を全部あげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えることが難しい生徒には机間指導を行い、助言をし、自分の考えを持たせる。 視覚的に生徒の道徳的価値を把握するために名前カードを準備する。 生徒に理由や根拠を聞き、多くの見方や考え方があることを確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考え、グループで意見交換し、全体で共有する。 	<p>あなたはどのような判断が望ましいと考えますか。</p> <p>○判断する上で大切な点</p> <p>A：きまりを守る。</p> <p>盗んだ男のことを考える。</p> <p>治安官としてやるべきことをする。</p> <p>（正しい裁きを行う）</p> <p>店の人に迷惑をかけている。</p> <p>B：相手（女性）のことを考える。</p> <p>自分の利益（報酬）を考える。</p> <p>両方を考慮する。</p> <p>C：思いやりを大事にする。</p> <p>人間関係を重視する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの話を関連付けながら立場や場面、人間関係などに着目させ、物事を多面的・多角的に捉えられるよう声かけをする。 話し合いの中で考えが変わった生徒には名前カードを移動させるよう指示し、価値の変容を見る。 考えが変わった生徒がいたら理由を聞いて変容の様子を確認する。
終末 〈振り〉	<ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返り、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学びを身近な生活に結びつける 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじめとおわりの変容をワークシートに記入させる。

6 授業研究の視点

- 自分と周りの生徒、資料の登場人物で、それぞれの立場の考えを比較し、活発な議論ができるような発問や展開の工夫ができたか。